

平成 28 年度 第 9 回 SD 研修会報告

内 容	救命訓練（AED講習）：心肺蘇生法、AED使用法
日 時	平成 29 年 1 月 23 日（月） 16:00～17:00
場 所	宮崎国際大学 2 号棟 107 教室
進 行	鈴木 局長
出席者	31 人（学生参加含）
議 事 内 容	
<p>宮崎市消防局南消防署の署員 5 名から「救命処置」の指導をしていただいた。</p> <p>救命の可能性は、心臓と呼吸が止まってから時間が経過するほど低くなる。例えば、心臓と呼吸が止まって 10 分経過すると、救急車が来るまで何もしなかった場合は、救命の可能性は、10%未満だが、居合わせた人が救命処置をした場合には、20%になるという説明があった。つまり、その場に居合わせた人が救命処置を行うことが、命を助けることにつながる。「救える命」を救うために私たちが救命処置の講習を受けることは、非常に意義のあることである。</p> <p>宮崎市消防局では、119 番通報入電から救急隊が現場に到着するまでに平均 9・1 分かかかるそうだ。救急隊が到着するまで、救命処置ができるよう講習に臨んだ。</p> <p>3つのグループに別れて、心肺蘇生法（CPR）と自動体外式除細動器（AED）の練習をした。</p> <p>実際の CPR と AED の使用法については、添付した資料に記載されている。</p> <p>胸骨圧迫と人工呼吸を繰り返す動作は、かなり体力を要する。特に胸骨圧迫は、小柄な女性には難しそうだった。男性の場合でも、一人で繰り返すのは、長時間は難しい。救急隊の方も言われていたが、なるべく多くの人を集めて、交替で救命処置をした方がよい。マンパワーを集めるとよいということだった。</p> <p>また、練習用の AED 以外に、本学に設置されている AED の中身を確認した。日本語のみの表記だったので、英語版を準備しておくといよい。</p>	